

復興に向け……今から始まる牛歩のあゆみ

— 今年度は復興ビジョンにもとづいて地域と行政そして志を持つ多くの応援団の皆様と一緒に、3つのビジョンを核として現場において一歩ずつ着実に進めてまいります —

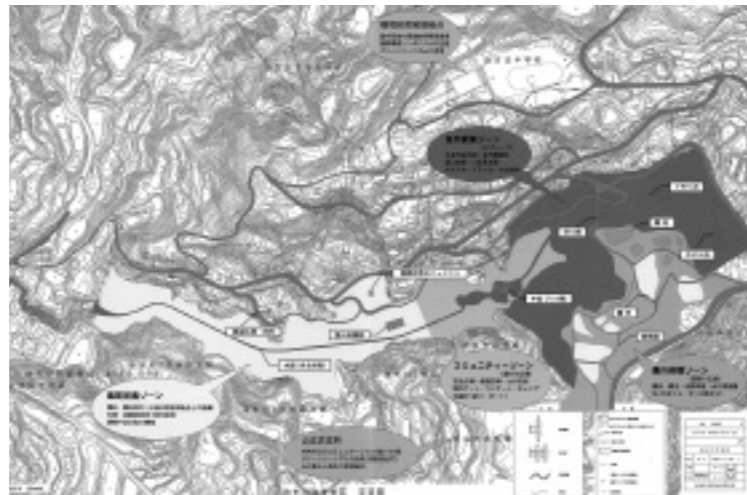
その1 山の暮らしの再生を期すリーディングプログラム

山古志フィールドミュージアム構想

範囲：山古志油夫地域を中核とした一帯

取り組み：油夫地区民と協働し震災復興のモデルとして自然の復活や山の暮らしの再生に資する取り組みをし、全国の山間地が抱える問題解決の糸口となりうる多様な情報発信拠点として整備を進めたい

本年度の予定：棚田造成の支援・植林用苗床の造成・花畑の造成など



その2 山の緑を取り戻す運動

縄文ぶな街道物語



範囲：栃尾から山古志・小千谷・川口にかけて

取り組み：地域の植生の範囲から採取した落葉広葉樹を主とした種を採取し苗床で稚苗を育成し崩落復旧の山肌や尾根沿いに植林をし育成管理を進める地域運動です
これには全国に賛同者を募り木を植える運動にとどめることなく、人的交流による地域活性化を目指すものです

本年度の予定：採取・播種作業

その3 景観の復興と山間地景観のあり方の研究及び提言

山の暮らしのランドスケープ

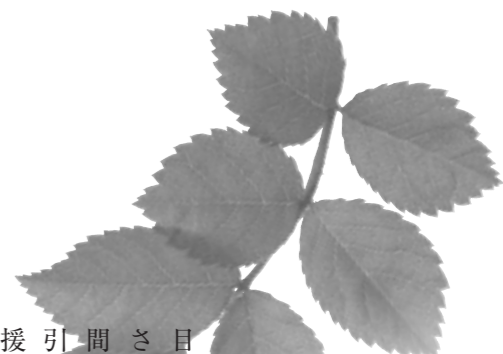
範囲：中越震災で被災した山間地域すべて

取り組み：緑の基本計画と具体的景観形成事業プランの策定

本年度の予定：ランドスケープコンサルタント協会と協働し油夫ゾーンをたたき台とした提案書の作成
みどり復興ワークキャンプの継続開催による意見集約



このほかにも関連する活動も含め5月30日の通常総会において採択され実現に向け歩を進める予定です。皆様のご支援と参加を心よりお願い申し上げますとともに、一日も早い「実感できる復興」に向け、汗を流そうではありませんか。(suzuki)



豊かな郷土の再構築に向けて…… がんばろう長岡「前より前へ!!」

理事長 鈴木重志

忌まわしい大地震から早、三年目を迎える国・県・市の総力が結集された結果ハード面の復旧は瞬く間に目途をつけていただきました。引き続き行政機関には大いにご支援をいただかなければならないところですが、今度はいよいよ我々市民も直接生活の場として、それぞれの地域の復興に向けて自ら力を合わせて永い道のりを歩まねばなりません。

我々協会も緑の復興の観点から精一杯の力を振り絞って皆様との協働を進める所存でございます。何よりも大切な事は、長岡28万市民がここをひとつにして、この不運を発展のエネルギーに変え明日に向かつて「かけがえのないふるさと」の構築を旨とさせていただきます。

そのことが、支援をいただいた全国の皆様の心に報いることになるのだと思います。さて、昨年10月のシンポジウムで発信させていただきました「山古志フィールドミュージアム構想」ならびに栃尾から山古志、小千谷、川口にかけての里山保全運動「仮称」縄文ぶな街道物語」は本年度を復興のスタート年として、地域の皆様を始め全国のランドスケープの仲間たち、そして、関係諸機関と協働し地道に実践に移してまいります。この取り組みが災害の復興としての役割に終わらず、ますます荒廃が進む全国の中山間地再生のリーディングプロジェクトとして力強い発信力と高次元な造園技術の革新に結び付くことを願っております。

また、継続事業の緑化推進につきましては、より多くの市民参加を促し「にいがた緑の百年物語」や「花いっぱいフェア」を積極推進するとともに子供たちを対象とした環境教育の一環としてピオトープや温暖化阻止、資源の有効活用を「環境学習」を通じて伝えます。



いまや緑の意義は、人の安らぎのための範囲を大きく超え、人類を始め、あらゆる生命体の存亡の危機を救う重要な要素となつてまいりました。私たちの使命はますます大きく、かつ重大といえます。私たちは今年もこれらの活動を軸として、「前より前へ」の意気込みで、少しでも環境の改善に役立ち、皆様の豊かなライフワークに供していただけるよう取り組んでまいります。

なお、緑の防災対応につきましては、昨年の実績を検証し関連組織とより綿密な連携をとり、更なるシステムの強化とともに緊急時の対応力の強化に努めてまいります。市民の皆様、関係諸官庁におかれましては、これからも引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

「※「前より前へ」のキャッチフレーズは今年度から取り組みがなされる長岡市総合計画の推進フェーズで、合併前、震災前より（前より）、より素晴らしいまちづくりを目指して前進しよう（前へ）」という意味です。

大会宣言

復旧から復興へーランドスケープからの提案ー

私たちは、自然生態系の骨格を成す山間地の自然災害を検証し、自然の理の中で、人間の豊かな情感と地域を総合的な組み立て、場のシステムをまもりつくるランドスケープの視点から、今後わが国の自然災害の防止策及び復興のモデルケースとすべく、被災地の皆さんと共に、ふるさとの自然景観と地域再生、さらには持続性ある発展のため、協働の精神をもってこの苦難に立ち向かい、果敢にアクションを展開いたします。

- 一、「山古志フィールドミュージアム構想」を提起し、その実現に向け邁進します。
- 一、山肌の再生を目指して「山のみどりのオーナー制度」を発信します。
- 一、地域の再生に資する森づくりを推進します。
- 一、造園特有の伝統的技法と新技術を持って、地域と共に持続性のある活動を展開します。
- 一、中越を越えて様々な人々のネットワークにより、これを具体化していきます。

平成18年10月19日
中越震災・みどりの復興シンポジウム実行委員会

緑復興シンポジウムの報告書がまとまりました。協会のホームページで紹介しております。
みなさまからの絶大なご支援の賜物と感謝申し上げます。

し上げご挨拶いたします。
「※「前より前へ」のキャッチフレーズは今年度から取り組みがなされる長岡市総合計画の推進フェーズで、合併前、震災前より（前より）、より素晴らしいまちづくりを目指して前進しよう（前へ）」という意味です。